
政策提言報告書

こおりやま広域圏
チャレンジ「新発想」研究塾 2022

目次

◆ チャレンジ「新発想」研究塾とは	3
◆ 活動の経過	5
◆ 報告会	9
◆ Look Back 研究塾を振り返って	12
◆ 関係資料	14
▪ 研究塾生名簿	
▪ こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾設置要綱	

チャレンジ「新発想」研究塾とは

住民ニーズを的確に捉え地域の魅力を高めた住民満足度の高いまちづくりを実現するため、住民生活を直視し、**新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の調査**

研究を行うとともに、こおりやま広域圏の**若手職員の政策形成能力の向上**に資するこおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾（以下「研究塾」という。）を設置しています。

チャレンジ「新発想」研究塾とは

本市では、これまでも若手職員による政策研究会を設置し、新たな行政課題解決や、職員の政策立案能力向上に取り組んできました。

2018年度（平成30年度）からはこおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）の

連携事業として、こおりやま広域圏の市町村職員に対象者を拡大し、今年度は、郡山市・須賀川市・二本松市・田村市・本宮市・大玉村・鏡石町・天栄村・猪苗代町・石川町の**5市3町2村の若手職員12名**で取り組みました。

若手職員による政策研究会の変遷

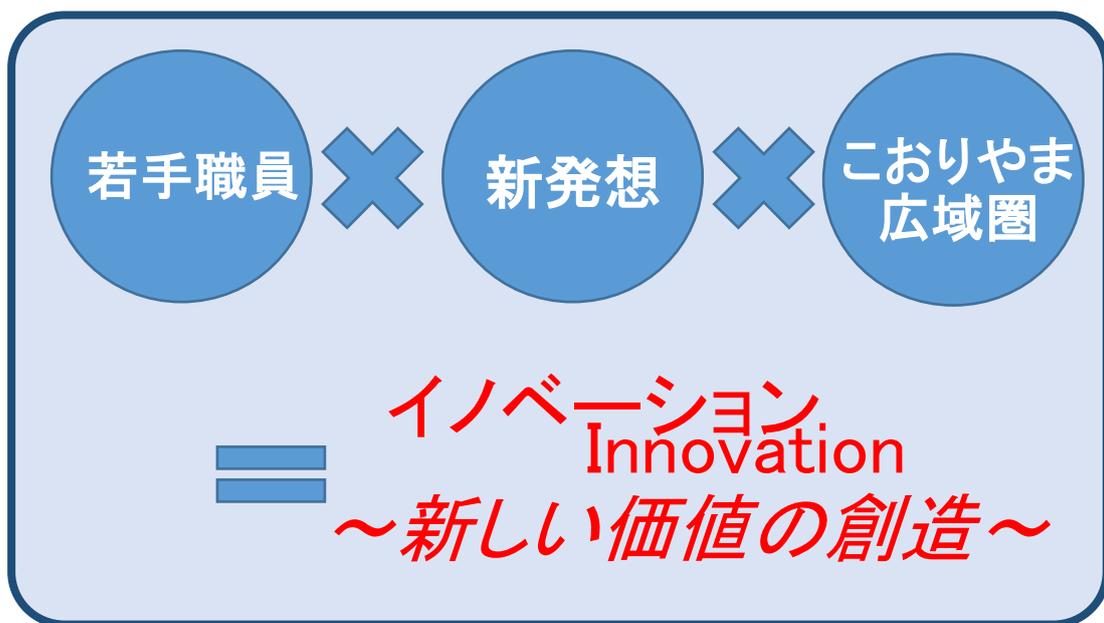
平成8年度～平成17年度 『きらめき21推進研究会』

平成18年度～平成24年度 『ハーモニー推進研究会』

平成25年度～平成29年度 『チャレンジ市役所「新発想」研究塾』

平成30年度～ 『こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾』

塾生の対象をこおりやま広域圏17市町村に拡大！！



こおりやま広域圏とは

こおりやま広域圏とは

郡山市を中心に、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、磐梯町、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町の5市8町4村で形成する「こおりやま広域連携中枢都市圏」のことです。17市町村それぞれの強みや資源を生かし、人・モノ・情報が行き交う歴史的・文化的にも結びつきが強い地域です。



17市町村のネットワーク

人口減少・少子高齢社会の進展により、地域における行政サービスの質の維持が難しくなることが予想されています。

そこで、近隣市町村が互いに手を取り合い、協力して圏域内の行政サービスを提供するな

ど、「ONE TEAM 17」の精神のもと、互いに地域の良さを尊重し、「広め合う、高め合う、助け合う」関係を構築し、圏域の皆さんが、将来も安心して快適に暮らせる地域づくりを目指しています。



活動の経過

年間スケジュール

7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		
上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	
開講式・オリエンテーション			交流会						模擬発表会				報告会	
	先進地視察													
	調査・研究													

開講式・オリエンテーション【2022年7月】

開講式は、対面とオンラインを併用し、7月13日に開催しました。

今年度は、郡山市1名、須賀川市2名、二本松市1名、田村市2名、本宮市1名、大玉村1名、鏡石町1名、天栄村1名、猪苗代町1名、石川町1名の計12名(男性9名、女性3名)の意欲あふれる若手職員が公募により集まりました。

開講式では、塾生の紹介を行い、本研究塾の塾長である品川市長から激励をいただきました。その後、事務局より今後のスケジュールや課題抽出の進め方などのオリエンテーションを行いました。



調査・研究スタート(7月～1月)

<基本的な進め方>

- ・開催頻度、時間は塾生にて調整を行う。
- ・対面、オンラインを併用し討議を行う。
- ・討議内容は、記録票にまとめ、進捗等を事務局へ報告する。



①調査研究テーマの方向性を決める

こおりやま広域圏が抱える「人口減少」に着目した「移住・定住」について

1班:創業・就業支援
による若者が住みたい
まちの実現

2班:こおりやま広域
圏内への移住の促進

各グループは、まず具体的な調査研究のテーマ設定に取りかかりました。

こおりやま広域圏が抱える課題等を元に、様々な地域が置かれる現状を調査していくことで、お互いの興味関心を踏まえ、調査研究の方向性を決定しました。

②提案内容について具体化する

次は、具体的な提案内容について検討しました。課題は何なのか、その課題解決となる手法について、先進事例などを調査し、そして「こんな事業があったら面白い」と若手職員らしい『**新発想**』を追及しました。



交流会・模擬発表会(8月・11月)

調査研究の進捗状況の共有及び他の班員からの情報提供や新たな視点からのアドバイスを目的として、8月及び11月にそれぞれ開催しました。

両機会を経て、提案内容の深化だけではなく、報告用資料の見せ方や報告方法の向上が見られ、1月の報告会に向け、各班で試行錯誤していきました。

先進地視察の実施(11~12月)

研究テーマに基づく実際の取組を知るため、現地視察とオンライン視察を実施しました。視察先の選定やアポイント等についても塾生が行いました。各グループともに行政のみならず、

民間団体への視察も行い、幅広く知見を深めました。この取組を通し、塾生同士の連携・つながりをさらに深めることができました。

1班(創業・就業支援による若者が住みたいまちの実現)

1班は、転出した若年層が地元に戻ってこない状況を改善するため、創業・就業支援の両面から施策を提案。創業・就業支援の取組を行っている団体を中心に、先進事例の視察を行いました。

富山市役所

(現地視察)

公共交通機関への投資を起点としたコンパクトシティの造成およびその波及効果について

富山県若者就業支援センター

(ヤングジョブとやま)

(現地視察)

若年者にターゲットを絞ったワンストップ型の就業支援について

富山県創業支援センター

SCOP TOYAMA

(現地視察・オンライン視察)

県施設を活用した総括的な創業・移住促進住宅について



ヤングジョブとやま外観



SCOP TOYAMA 視察



集合写真

2班(こおりやま広域圏内への移住の促進)

2班は、転入者を増やし、地域に活力を与えるため、「居住支援」「就労支援」「情報発信」の3面から移住促進策を提案。先進的な移住・定住促進事業を行っている団体を中心に、先進事例の視察を行いました。

長野市役所(現地視察)

長野地域連携中枢都市圏と移住・定住促進事業について

認定 NPO 法人ふるさと回帰

支援センター

(現地視察)

全国で連携した移住・定住促進施策について



長野市街並み



ふるさと回帰支援センター視察



集合写真

報告会

将来を担う若手職員による政策提言！！

7月に研究塾が開講して以降、約7か月間におよぶ調査研究、先進地視察を行ってきた成果について、1月27日に市町村長を始め、職員、関係団体等に広く公表しました。こおりやま広域圏各市町村をオンライン（Zoom・YouTubeによる同時配信）で繋ぎ、対面とオンライン併用で実施しました。

今年度は、「こおりやま広域圏が抱える人

口減少に着目した移住・定住について」を研究分野とし、1班は、「創業・就業支援による若者が住みたいまちの実現」、2班は、「こおりやま広域圏内への移住の促進」をテーマに政策提言を行いました。報告会を迎えるまで、リハールを重ね、内容だけでなく、誰もが興味を抱くようなプレゼンテーションとなるよう工夫を凝らしました。



発表の様子



集合写真

代表挨拶【大玉村 辻本 友也 さん】



昨年7月の開講式以降、こおりやま広域圏として取り組みたいと考える新たな政策の提案に向け、議論を重ねるとともにテーマに関する先進地視察を行い、研究を進めて参りました。

7か月間の活動を振り返りますと、塾生同士が同じ目標に向かって議論を重ねる貴重な経験をすることができました。この経験を活かし、所属自治体やこおりやま広域圏に貢献していきたいと思っております。通常の業務もある中、塾生を快く送り出し、支えて下さった職場の皆様、ご協力をいただきました視察先の皆様及び事務局の皆様に、心から感謝を申し上げます。

提案概要

1班(創業・就業支援による若者が住みたいまちの実現)

○課題

転出した若年層が地元に戻ってこない状況を改善するため、創業・就業支援の両面から施策を提案。

○提案内容

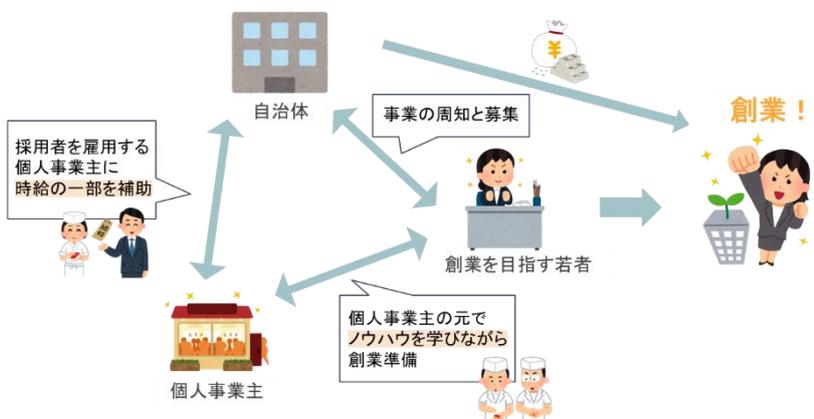


こおりやま広域圏の企業合同で「ユニークな就活イベント」を首都圏で開催。
(例)人狼合同説明会、こおりやまの虎、逆合同説明会



有償インターンのような形で個人事業主のもとで、事業の進め方などを学び、創業の準備を行う。

創業インターン
| いきなり創業する前に、有償インターンのような形で個人事業主のもとで事業の進め方
| や、人脈の形成などを学びながら創業の準備をすることができる。個人事業主に対して
| は人件費の補助を、最後まで継続し、創業まで行った方には創業祝い金を支給する。



○目標

目標

目標1 Iターン・Uターン者の増加

目標2 開業率を5%に向上

目標3 若者が戻りたくなるまちづくり

➡ 若者が輝けるこおりやま広域圏へ

2班(こおりやま広域圏内への移住の促進)

○課題

直近 10 年間広域圏内において、転出超過が続いていることから、転入者を増やし、地域に活力を与えるため、「居住支援」「就労支援」「情報発信」の3面から移住促進策を提案。

○提案内容

転入者を増やし、地域に活力を！

「コスト関連」⇒ 提案A：居住支援

「仕事関係」⇒ 提案B：就労支援

「情報不足」⇒ 提案C：情報発信



提案 A

- 二段階移住

提案 B

- ワーキングホリデーinこおりやま広域圏

提案 C

- SNSの活用
- 移住・定住ポータルサイトの拡充
- [ふるさと納税] 共通返礼品の作成

○目標

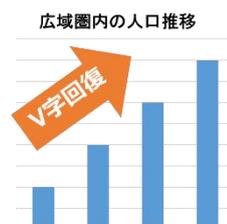
まとめ

地方への移住を妨げている要因
【コスト・仕事・情報】

払拭！！



転入者の増加



※各班の提案内容詳細は、別紙をご参照願います。

Look Back 研究塾を振り返って

研究塾が終わり、今の心境や活動期間を振り返っての様々な意見を聞かせてもらいました。

— チャレンジ研究塾に応募したきっかけを教えてください。

- 数年前から興味がありましたが、業務の都合上参加を見送ってきました。今回良い機会だと感じ、さらなるスキルアップ、自己成長のため参加を決意しました。
- 他自治体のことを知るのに良い機会だと考えたから。
- 職場から参加の誘いがあったため、よい機会だと思い、参加しました。
- 他市町村職員との定期的な討議を通して、一つの成果品を創り上げることは滅多にないことだと思い、参加しました。

— 実際に研究塾に参加してどうでしたか？

- 他市町村の職員との交流、パワポの資料作成、提案など普段の仕事では経験できないことができた。
- 普段の業務では触れない分野について深く学ぶことで、現在の業務について新たな視点で考えることができるようになった。
- 複数人で一つの報告書・政策を提案する流れを学ぶことができた。
- 意見の集約や調整に苦勞することがあったが、他自治体の職員と交流をする機会は貴重だった。
- 班員とお互いの自治体の情報を交換する機会が多く、とても有意義な時間を過ごすことができました。
- 他自治体にて討議を行い、自治体それぞれの雰囲気を感じることができ、良い経験となった。

— 先進地視察の感想を教えてください。

- アポイントメントから質問内容の精査、実際の政策内容やまちづくりの調査等、現地視察で学ぶことは大変多かった。
- 自分達で先進地を決め、その視察場所に赴き、知識を得る機会は通常業務では得られない機会のため大変勉強になった。
- 現地視察では一泊二日で三箇所も視察することができ、とても充実していました。ただ、視察までの計画や準備がスムーズにはいかず、もう少し時間に余裕をもって計画的に進められれば良かったと思います。
- 現地視察により、目的地に向かいながら先進地の街並みや雰囲気を実際に感じることができました。

— この経験をどのように活かしていきたいですか？

- これまで主観的に物事を考えていましたが、研究塾を通じて客観的な意見を出すこと、意見を出すために情報収集を幅広く行えたことは成長できた点に挙げられると思います。
- 他自治体職員とのつながりやプレゼンの実践の経験ができ、勉強になりました。楽しかったです。ここでできた縁を大切に、今後も業務に励みます。
- 研究塾の活動をきちんとこなしていけるか不安でしたが、班員の皆さんや職場の方の力を借りながら最後までやり遂げることができました。今回の経験を活かし、まずは自分が所属している自治体の発展に貢献できるよう、尽力していきたいです。
- 今回の研究塾を通して自治体の様々な問題を調べる中で、こおりやま広域圏ひいては自らの自治体の現状にも目を向けることとなり、施策の在り方について学ぶ絶好の機会となりました。今後は、この経験を活かして現状、未来に適した政策形成を心がけていきたいと感じております。
- メンバーとの意見交換を行い、他市町村の良い点悪い点を知ることができたので、それを糧に所属する自治体でも意見、提案をしていけたらと思う。

— 皆さん、ありがとうございました。

あらためて研究塾生の皆さん大変お疲れ様でした。日頃の業務もある中での活動は大変だったかと思いますが、研究塾での経験は、間違いなく今後の皆さんの財産になると思います。また7か月におよぶ研究塾に参加できたのも、職場

の理解があつたのことと思いますので、この研究塾を通して成長できたことを今後活かしていただければ幸いです。この研究塾で得られた『つながり』を大切に、こおりやま広域圏の発展に寄与できるような人材になることを期待しています。

研究塾生名簿

▼1班 創業・就業支援による若者が住みたいまちの実現

No	市町村名	所属	職名	氏名
1	須賀川市	経済環境部 商工課	主事	皆川 陽奈
2	二本松市	総務部 税務課	主査	野地 和希
3	田村市	総務部 総務課	主事	佐藤 隼斗
4	本宮市	市民部 市民課	副主査	安齋 由麻
5	大玉村	総務部 政策推進課	主事	辻本 友也
6	猪苗代町	商工観光課	地域おこし協力隊	加藤 律樹

▼2班 こおりやま広域圏内への移住の促進

No	市町村名	所属	職名	氏名
1	郡山市	保健福祉部 保健福祉総務課	主査	松尾 雄治
2	須賀川市	経済環境部 商工課	主事	吉田 健人
3	田村市	市民部 税務課	主事	佐藤 雄也
4	鏡石町	税務町民課	主査	松崎 雅充
5	天栄村	企画政策課	主事	森内 祐貴
6	石川町	保健福祉課	栄養士	西間木 穂乃花

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾設置要綱

(設置)

第1条 住民ニーズを的確に捉え地域の魅力を高めた住民満足度の高いまちづくりを実現するため、住民生活を直視し、新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の調査研究を行うとともに、こおりやま広域圏の若手職員の政策形成能力の向上に資するこおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾(以下「研究塾」という。)を設置する。

(調査研究事項等)

第2条 研究塾は、広域連携により効果的に解決すべき課題について、次に掲げる事項を調査研究し、その成果を郡山市長及びこおりやま広域圏各市町村長に報告する。

- (1) 住民福祉の増進につながる取組み
- (2) 自主的・自立的なまちづくりのための取組み
- (3) 先導性・モデル性のある取組み
- (4) こおりやま広域圏の発展に資する取組み
- (5) ICT 利活用による取組み

(組織)

第3条 研究塾は、公募または各自治体の所属の長が推薦する研究塾生をもって構成する。

- 2 研究塾に代表及び副代表1人を置き、研究塾生の互選によって定める。
- 3 代表は、研究塾を代表し、会務を総理する。
- 4 副代表は、代表を補佐し、代表に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 会議は、代表が招集し、代表が会議の座長となる。

2 代表は、特に必要があると認めるときは、研究塾生以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(研究班)

第5条 研究塾に調査研究事項に応じ、専門的に調査研究を行うため、政策開発部長が定める数の研究班を置く。

- 2 研究塾生は、いずれかの研究班の班員となる。
- 3 研究班に班長及び副班長1人を置き、班員の互選によって定める。
- 4 班長は、研究班を代表し、その事務を掌理する。
- 5 副班長は、班長を補佐し、班長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 6 研究班の会議は、班長が招集し、班長が会議の座長となる。
- 7 班長は、特に必要があると認めるときは、会議に班員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。
- 8 班長は、関係課等の長に、調査研究上必要な資料等の提供を求めることができる。

(各課の協力)

第6条 課等の長は、研究塾における調査研究の過程において、必要な説明、資料等の提供を求められたときは、速やかにこれに応じるよう努めなければならない。

(庶務)

第7条 研究塾の庶務は、政策開発部政策開発課において処理する。

(委任)第8条 この要綱に定めるもののほか、研究塾の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成8年8月30日から施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月13日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月25日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年7月22日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年6月11日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾2022

政策提言報告書

令和5年3月発行

編集・発行 郡山市政策開発部政策開発課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号

T E L 024-924-2021

F A X 024-924-2822

E - m a i l seisaku-kaihatsu@city.koriyama.lg.jp



本市ウェブサイトからも
ご確認いただけます。